

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員個々で考え、その後集約し独自の理念を掲げている。又、見やすい場所に掲示しており常に気持ちを高め業務にあたるよう努めている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	会議等で確認し合い重点目標を掲げ、そして共有し日常のケアに活かしている。(重点目標は事業計画書に記載)	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議、毎月のお便りを通じて情報提供し理解して頂くよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣から来ている職員をパイプ役とし交流を持っている。利用者家族の方々が声を掛けて頂き、アットホーム的な温かみのある付き合いをさせて頂いている。(慰問等通じて)	○ グループホームの理解を求めると共に、交流行事(慰問等)を通じて行き来しやすい環境作りを行う事が求められる。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	訪問行事等の計画の基、こちらから出向いて交流を持っている。又、雑巾の寄贈も行い、相互の理解、親睦、活動を深めている。	○ 地域行事への参加を今以上に積極的に行う事が必要とされ、インフォーマルを通じて理解して頂く事も大切である。地域の敬老会への参加。(地域の敬老会の日程等を家族の方に事前に教えて頂くようにする)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの理解を示していき、地域の方々と共に暮らして良かったと思われるような相互のコミュニケーションが確立されていない。	○	職員等が地域へ出向き現状把握を行い、ヒアリングを通じて得ていき、何が求められているのかという事が必要である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々による自己評価を行い、その後グループディスカッションにて集約し、評価から出た改善点を会議にて話し合い取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催にて報告し、意見交換等を行い、お互いに理解・共有に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホーム独自で立ち上げている研修会に参加して頂き意見・感想を述べて頂き、質の向上に向け取り組んでいる。又、介護相談員が来訪し情報提供等行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状入居されている方々は摘要されていない為、制度的問題には触れていない。	○	今後権利擁護事業・成年後見制度に関して研修会等使い、運用出来るよう取り組む必要性がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	詳しい制度把握は出来ていない。万が一そういう場にあたった場合の対応・対処方法が理解不足である。	○	虐待防止法について研修会等使い、理解しケアに取り組むよう邁進する必要性がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については、その都度家族へ説明・相談等行っており、相互の理解・納得も得られている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安心・安全な生活を営むよう提供しているが、常に利用者等の訴えについては聞き入れ、受け入れられる姿勢で取り組んでいる。	○	状況に応じ入居者、家族の意見等聞き入れパイプ役になる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議での場。毎月発行のお便りにて暮らしぶりを報告。面会の際、生活情報の提供と帳簿確認・領収証の提示。緊急時の際は電話にて報告。(経過について詳しく)		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置しており、受付相談箱・相談書設けている。年2回家族アンケート実施し、それに基づき改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議での場。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の実施。(月1回) 個人面談。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常業務の中では、日勤者同士で連携を図り対応している。緊急時に対応出来るようシフト調整・勤務を組んでおり随時対応出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での異動はさげられない為、異動職員に対しても不安がないよう話している。利用者の心情を考慮し対応している。	○	安定した職員配置。職員の育成。職場環境の充実化。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修への参加。職員が希望する外部研修への積極的な参加を行っており質の向上に努めている。ホーム内での勉強会を計画に基づいて実施している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GHブロック定例会や職員交換研修等通じて情報交換やネットワーク作りを行い、相互の質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人としての年数回合同での職員間の交流の場を設けている。相談事等については、アドバイスを言い話せる環境作りを提供している。個々の休みを利用してリフレッシュをしている。</p>	<p>○ 月1回職員間の交流会をし、ストレス発散の場を設けていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>仕事に対する意図を明確にした上で、的確に判断し本人の向上心を図っている。職員間で個人の意見を言える場があり、意見の反映にも努めている。個人面接を通じて評価しフィードバックしている。資格取得や研修会への積極的な参加。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前調査後、入居判定会議を通じて取り組んでいる。又、本人の思いを受け止める為、寄り添いケアを行い信頼関係を築き、安心して生活して頂く為のプロセスを構築している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前調査時面接し、家族の思い・悩み等良く聞き入れ対応している。その後、入居時契約開始の際、家族と話す場を設け、過去・現在経過を確認し相互の理解の上、ケアに努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、「グループホームとは」と言う事をきちんと説明し、理解して頂いている。家族はとても大切なキーパーソンである事も話し、今必要とするサービスとは何かと言う事もヒアリングを通じてアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に情報を共有し、本人が安心して暮らせる環境作りに取り組み、必要に応じて家族へ生活情報提供行い対応している。職員が間に入り、他入居者とのコミュニケーションや場に慣れて頂く取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と同じ時間を共有し、それぞれの役割りをもって家庭的な環境のもとで日常生活を送っている。行動等共にし季節の話し、昔話を聞いたりし個々の表情等引き出すよう配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	昔、本人が行っていた事を情報として共有し活かしている。毎月のお便りで日常生活について報告している。又、敬老会、交流会等でコミュニケーションを図れる場を作り、職員、家族、本人が参加している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会等を通じて、近況報告し本人との会話を大切にしている。家族と共に出来る行事の計画(共に過ごせる一時の空間)	○	職員のはからいで、家族との大切な時間をより多く持てるよう支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問、個人の誕生日の際里帰りし友人の方々に集まって頂き、交流を深めている。(一時の団欒の場)又、本人が希望される場所に職員が同行している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性を引き出し、活かしながら信頼関係を築けるよう努力している。常に皆と一緒に過ごせるよう意識して声掛け等行っている。	○	入居者が一人の時間も趣味(やりたい事)が出来る場の提供。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した際、今後についてはきちんと家族に納得して頂いている。又、他ホームへ異動時は何度か面会に行き来しているも、家族への情報提供は行っていない。(本人の様子等)	○	契約終了時点でリセットとなるも、今まで共に生活して来た事もあり、何らかの情報交換が出来ればと思う。又、共に支えあってきた訳だから長い目で良い付き合いを提供して行きたい。(面会やお茶飲み等)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、本人の希望、意向を尊重し把握した上で生活して頂いている。出来る事の継続性。気づきの大切さ。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの確認、家族からの情報提供に基づき、そして、面会時等通じ話す機会を設け、今までの生活歴を聞き職員が共有し対応している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りを通じて、1日の一人一人の状態を把握している。バイタル測定、食事摂取量等。ケース記録詳細。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月職員会議の際、カンファレンスを行い情報の共有化を図っており、その後介護計画作成している。家族を交えたカンファレンスを実施し理解を得ている。	○	今後も家族を交えたカンファレンスの実施を行い、ケアの一員として情報の共有化に努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し前に職員全員でカンファレンスを行い、変更等確認し作成している。その後家族へ報告し同意を求めている。家族を交えたカンファレンスを実施し理解して頂いている。	○	今後も家族を交えたカンファレンスの実施を行い、ケアの一員として情報の共有化に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録として残し、申し送りにて情報を共有し職員会議で検討し計画の見直し等を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身体の状況に応じて、施設間で連携をとり多機能性を重視し対応している。(法人全体でのバックアップ体制)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域との協力、交流が確立されており、月1回ボランティアに来て頂いたり、慰問等に来て頂く機会が増えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況、状態に応じて本人に合ったサービス提供出来るよう連携を図り支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在殆ど行っていない。	○	今後内容等視野に入れ、情報提供等行い相互の理解を得なが協同出来るシステムを築きあげていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を大切に、かかりつけ医のバックアップがある。職員が同行し受診しており、早期対応を心掛けている。緊急時にも対応可能な医療機関との連携が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>専門医を招いての話しを家族も交えて聞いて頂き、相互の連携がとれるよう取り組んでいく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>各医療機関、ホームとの連携が必要。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のペース、リズムに合わせた言葉がけに配慮している。(指示、命令、声のトーン) 関係書類は鍵をかけて管理している。(守秘義務の徹底)	○ 入居者に対しての言葉掛け、対応等の研修会を通じて職員の質の向上に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自発行為を尊重し、本人の訴え、思いを引き出すよう支援、ケアしている。(話せる場の提供)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を第一に考え、本人の思い、ペースを尊重しその人らしい生活が出来るよう支援し、落ち着いた行動で対応している。	○ 職員間の連携の強化を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人、家族が希望する理・美容院へ同行している。衣類等も毎日バリエーションをかえ楽しみを支援している。	○ 時には化粧する事によって回想法も必要とされる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを考え、その人に合った食事を提供している。毎日の献立、買い物を行い一緒に食事の準備や後かたづけを行っている。代替の提供。	○ 外食をする事が少ない為、機会を設けていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人からの希望があった場合は状況に合わせ、好み、分量に配慮し提供している。本人の誕生日には好物を提供している。	○ 果物や出来るだけ手作りのおやつを提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が入居者個々の排泄間隔の確認をし声掛け等にて対応している。本人のその日の状態に合わせた援助方法を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数等の確認は行っているも、その日の状態に合わせた対応を行っている。入浴の訴えがあった際は希望に添った対応を実施している。毎日入浴(夜間浴)を行い自立支援、生活リズムの確保に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の訴えを尊重し、場に合った対応を実施している。状態に応じて心身のストレス軽減に努めている。週1回のリネン交換。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の趣味に応じ、畑仕事、裁縫、洗濯物たたみ等出来る事を行って頂き、潜在能力を引き出すケアを行っている。(個々に出来る事を模索し支援することで表情、生活リハビリの充実化)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々では管理しておらず。管理についてはホーム側で行っており、本人の希望に応じて持ち出し、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に買い物に出掛けたり、天気の良い日は散歩、ドライブ等に出掛けている。ホーム外自由に出入り出来る体制を取り行っている。(職員間での意識統一の重視)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力の基、誕生日等外出している。個人の希望に応じ、ドライブの実施にて気分転換を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話が出来るよう支援している。(手紙の内容等にて)家族より電話があった際は職員が間に入り対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるようホーム側としても努めている。(来て頂く大切さを誇りとし雰囲気を作り馴染みの関係を重視している)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員個々が理解しており、身体拘束チェック表に基づき把握して防止に取り組んでいる。本人の行動等否定せず、行動を共にし安心、安全に配慮している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、心理的な圧迫を持たさないように配慮している。施錠チェック表を作成し、必要に応じて施錠し行った時はチェックし、家族からの理解を求めるよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者個々の所在確認を行い、常に入居者を確認しやすい場所において個々の所在と様子を把握し、職員間で連携を図っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人が管理出来る物は、自身で管理して頂き確認をしている。使用する際は状況に応じ見守り等行いながら対応しており、保管については手の届かない場所、視野に入らないよう安全面に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険物の除去、見守り、行動を共にし防止している。研修会に参加し一人一人の状況に合わせ対応している。事故報告、ヒヤリハットの対策をしている。マニュアルの作成。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の看護師による研修会実施。マニュアルの作成。救命救急の講習会(AED)の実施にて訓練等行っている。	○	毎年、定期的に行う必要がある。(救命救急・AED)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で定期的に避難訓練を行い、相互の協力体制が得られている。マニュアルの作成。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約の際、家族にリスクについて説明し納得して頂いている。ヒヤリハット、事故報告を実施し報告、説明を行い承諾して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、表情、動作等の確認を行い、必要に応じ対応(再検、通院)をし職員間での申し送りを徹底し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、個々の処方薬について共有し、服薬の際も職員同士で確認している。薬の一包化(飲み忘れ、誤薬防止)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲用したり、便秘の際は水分を多く摂ったり食事面にも気を配っている。排便困難な際は、本人の処方薬(下剤)にて対応している。個々に合わせた便秘防止方法をかかりつけ医に相談し、助言を頂いている。	○	今後もホーム、医師との見解を大切にし、入居者が安心して生活して頂く為のサポートを重視し対応していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施(ケアブラン化)(支援対応の方々は声掛け等にて促し清潔保持、衛生管理に取り組んでいる)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、個々の状態を把握した上で提供している。ホームの管理栄養士に定期的にバランスについて指導等頂き改善に努めている。	○	管理栄養士による指導、講習会を行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策チームを独自で立ち上げ活動している。マニュアルの作成。作業チェック表にて毎日チェックし月毎に集計し会議等で報告している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日分の食材の買い物(新鮮さの提供)衛生管理表にてチェック。熱、火を通す調理方法。調理器具は毎日消毒し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を飾ったり、鉢植えを置いており玄関も広くスロープもあり、開放的になっている。花壇も作っている。ベンチの設置。畑にて野菜の栽培。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて生活出来るよう、また、家庭的な環境を維持する為にも五感への働きかけを大切にしている。入居者同士の癒しの場があり、お互いに支え合い、助け合いながら生活している。季節の花を置いて気持ちの安定を保っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間をオープンにし、いつでも入居者同士が集う場所となっており、廊下にもソファを置いて自由空間を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みが可能であることを説明し、家族、本人の希望を取り入れた居室になっている。(個々の使用していた物、写真、好きな物を飾り居心地良く過ごして頂いている)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後の換気。夜間の温度、湿度管理。加湿器の設置、管理。(冬期間)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手摺りの設置があり、全面バリアフリー構造とされており、明るさもあり廊下等も広い為、自由空間と生活環境が整われており、機能向上に向けた取り組みがある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じ出来る事を行って頂き、それぞれの役割を持ち積極的に活動している。(洗濯物たたみ、裁縫、台所仕事)声掛け、寄り添いケアにて混乱の緩和。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作り、畑で出来た野菜を収穫したり、花の水かけ、又、天気の良い日は散歩し休息出来るようベンチも設置している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

バイタル・感染症対策チーム・研修委員会を独自に設置立ち上げ、常に入居者の視点に立ち健康管理に努めケアを実施している。ボランティア・慰問を通じて地域との理解・交流を深めている。家族・職員間との関係を密にし（垣根のない何でも言える）お互いに情報を共有している。（年1回家族との親睦会実施）